

# 西照

西照寺寺報「さいしょう」

第12号

2005年8月16日

発行 浄土真宗本願寺派 西照寺  
高岡市吉久2丁目4-40

## 祠堂永代経 勤修

左記のとおり今年度の祠堂永代経をお勤めいたします。  
お参りくださいませ。

### おつとめの時間

八月二十六日(金) 午後二時～

二十七日(土) 午前九時半～

午後二時～

布教使 小島信師 新湊市堀岡(聞光寺)

西谷山西照寺



# いのちの大地

## 蝉せみの声

宗祖親鸞聖人が尊敬されたいた七人の高僧（七高僧）の中のお一人に曇鸞大師という方がおられます。西暦四百年代後半の中国北魏時代に生まれられた人です。親鸞の鸞は曇鸞の鸞からいただかれたと言われています。

その曇鸞様が書かれた「往生論註」という書物の中に、蝉のことを書かれた一節がありまして、夏の暑い盛りに蝉の声を聞くといつも思い出します。

「蟋蟀春 秋を識らず、この虫あに朱陽の節を知らんや」という言葉です。

蟋蟀とは、夏蝉のことだそうです。蝉は春と秋を知らない。どうしてこの虫が、太陽が鮮やかに輝く夏のすばらしさ（朱陽の節）を知っているだろうか、という意味

かと思えます。私たちは、太陽が燦々と輝き汗がほとばしる夏の季節に蝉の声を聞くと夏の象徴のように感じます。蝉こそ夏のすばらしさを知っているに違いないと思う。しかし、曇鸞様は、蝉は四季を知らないではないかと言われる。ご存知のように蝉は地中で何年も過ごし、夏に十日ほど地上に現れて命を終えていきます。だから、春・夏・秋・冬の全体を知らないわけです。四季を知っているものが夏の盛りに蝉の声を聞いて、夏のすばらしさを感じるのであって、夏しか知らない蝉には夏のすばらしさは分かるはずがないということです。

もともと言えばもつともな言葉ですが、曇鸞様は何を問うているのでしょうか。

それは、蝉のことを題材としながら、実はわたしたちの「いのち」を問うている言葉であると思えます。私の「いのち」はどこから生まれて、どこへ帰って行こうとしているのでしょうか。

人間は蟬より圧倒的に長生きします。しかし、肉体的に生まれてから死ぬまでを命のすべてと思い、今の欲望に振りまわされて唯生きるだけでは、蟬と同じ事になってしまうのかもしれない。命の全体像、「いのちの大地」を知り得てこそ、今を生きるよろこびと輝きがいた

だけの。仏法はそのことを教えています。  
あなたは、自分のいのちの大地をしつかりと見据えていますか。

曇鸞様は、蟬に託して、早く仏法に耳を傾け「いのちの大地」を学び知ることの大切さを私たちに訴えているように思えます。



## 亡き人を偲ぶ生活

日本人は長い歴史を通して、亡き人を偲びつつしつ仏事ぶつじや法事ほほうじを営いとなむ生活を続けてきました。

亡き人の命日を縁として偲んできたわけです。それは、亡き人が帰っていった命の日を通して、やがて私も帰っていく「いのちの大地」に思いを寄せ、確認する作業であつたようにも思います。

私を支えていた「いのちの大地」にこそ、私の生きる意味や使命、死を乗り越えていける道があると仏法は教えています。

阿弥陀仏の御物語もその「いのちの大地」の精神を象徴的に表現してあると思えます。（文責住職）

---

## 真宗の行事

## しどうえいたいきょう ＜祠堂永代経＞

祠堂とは先祖が集まる祠（ほこら）というような語意です。かつては寺の本堂も祠堂も同じようなものとして受け止められていた面もあり、今日も祠堂経しどうきょうという言葉が残っています。

浄土真宗では、全国的に永代経えいたいきょうと言われています。永代読経どっきょうの略で、亡き方々をしのびお寺で永代にお経があげられていくように、そして、子々孫々にいたるまで永遠にお念仏の教えが語り伝えられ、お寺が護持されていくようにという願いを込めて営まれる法要です。

そのためにご縁のある皆様に「永代経懇志」（祠堂経懇志）をお願いしています。

ご縁のあるすべての亡き方々の総追悼法要を「総永代経」と言い、西照寺では現在では年に一度八月の下旬にお勤めしています。それとは別に一個人に対する場合を「別永代経」と言い、よく「祠堂をつける」と言う言葉で言い表されています。

この様な習慣は、古くは中国が起源のようでした、家の敷地に祠堂をつくって亡き人を追悼したり、寺院で亡き人を追悼した習慣が仏教と一緒に日本に伝わってきました。浄土真宗では江戸時代のはじめころまでには、本山から全国の末寺に広まり営まれるようになったようです。

亡き方々は、お念仏を生きる拠り処として生き抜かれ、そして仏の世界へと帰っていかれました。この世でお念仏を申す御縁のなかった方々も、やがては阿弥陀あみだぶつ仏のお手回しによって、仏の世界へと返っていかれます。親鸞しんらん様は自分に近い先祖方を「諸仏しよぶつ」と受け取られているようなところがあります。浄土真宗で諸仏（もろもろの仏様）とは、迷える者を導き、あらゆる人々にお念仏申す人生を歩めと勧めてくださる方々であります。

お寺は、お念仏の教えを広めていく地域の根本道場です。その道場で皆様の懇志をもとに永代経をお勤めするということは、亡き人をしのび、亡き人に導かれながらお御堂みどうに足を運び、私の迷いを仏法に気付かせていただくということであり、そして、亡き先祖方は私を導びいてくださる諸仏であったとこの世で証あかしていくいとなみでもあります。

